

京塚と蝦夷穴

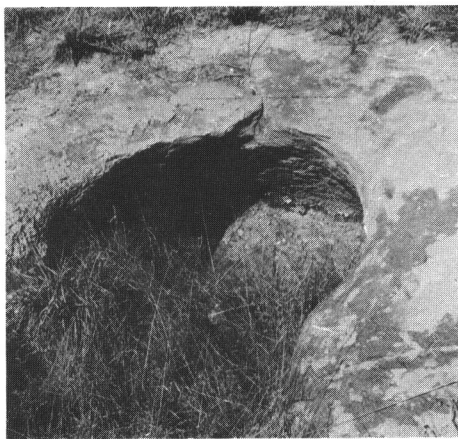
《横田》

横田の西に京塚という地名がある。第五十六代、清和天皇の貞観五年、国中に天変地変が起こった。先年、鎮守府將軍、文屋綿鷹、文屋宮田鷹を従い、東北の蝦夷征伐の際、蝦夷人をみな殺しにしたので、その怨霊のためとあって、国中の神社仏閣に祈願をさせた。石背国の諸寺、長光寺原に衆集して読経を修めたので、のちに天変地変は止んだという。それら経具を塚に納めた所というので、経塚の名が起きたという。北側の丘陵一帯を洞山と呼んでいる。ここには昔、蝦夷が住んでいたという蝦夷穴がある。大きいものは四メートルもあって、昔、遊人などがこの穴を博打するのに使ったといわれる。

明治二十三年の大雨で、土砂が崩れ、十数ヶ所の穴が出たもので、当時、穴の中から直刀、曲玉、土器、人骨などが発見された。曲玉は水昌、蠟石などであった。人骨は胛骨で現代人のものより大きかったという。

それ以来、沢山の人が宝堀をして、沢山の穴が盗堀されてしまった。昭和三十年頃、洞山の西を開墾したところ、直刀、人骨、須恵器などが出土した。西続きの末津久保には、昔、塚があつて、ここからも直刀や土器が出ている。この山一帯は横穴古墳群である。

「梓衝村誌考」「梓衝村郷土誌」より



横田京塚の虫蝦夷穴